

まっぼっくり



学校教育目標「主体的に学び合い、達成の喜びを自信に変え、ふるさとを誇りに思う児童の育成」

学校とは

教師生活36年、支援学校・中学校・小学校などに勤めさせていただき、現在縁あって、三角小学校で充実した日々を送ることができています。いろいろな職場で、ハラスメント等々の不祥事や人間関係で悩み、心身の健康を害し、休職や離職する人も少なくありません。私も以前、校長としての力量のなさから職員が休職してしまう経験をしました。しかし、休職から職場復帰訓練、そして職場復帰まで至り、現在は元気に楽しく教職を続けておられます。校長として申し訳ない気持ちで一杯でしたが、その先生から「校長先生の配慮があり現在学校で元気に教職を楽しむことができています。」と連絡を受けたときはとても嬉しかったです。この経験は、校長としての必要な力の一部を身に付ける機会ともなりました。子どもたちにとってもですが職員にとっても、学校とは安心安全な場でなければなりません。その環境を整えていかなければなりません。

授業前、6年生の立腰と黙想



子どもたちが安心して、豊かな心・確かな学力・健やかな体・地域への愛情を正しく育むために、各職員も安心できる学校を目指し、今年度残された9ヶ月の学校運営に当たっていききたいと思います。楽しみながら・・・。

先生も勉強

職員同士の主体的な研修

上記しましたが、子どもたちに確かな学力をつけるためには、我々は教師としての力量を常に向上させていかなければなりません。教育公務員特例法の第21条には「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」とあります。絶えず研究と修養をしていかななくてはならないのです。学校における教育実践はもちろんですが、教材研究・校内研修・校外での研修・自己研鑽等です。単純に考えると、授業者は1日6時間授業をします。子どもは1日6時間授業を受けます。その6時間が授業者にとっても子どもたちにとっても楽しくわかりやすく充実したものであることに越したことはありません。そうなることが教師にとっても子どもたちにとっても幸せなことです。しかし、そう簡単にはいきません。だから先生も勉強なのです。



昨日の校内研修において、研究主任の提案で「お悩み相談会」を開きました。日々の授業でうまくいかなかったことや悩み、逆にうまくいったことや効果的で子どもたちが生き生きと反応してくれたことなど、職員一人一人の悩みやうまくいった事例をわいわいとし合いました。1時間を予定していましたが、各職員が主体的に発言し1時間半があっという間でした。悩みや好事例を互いに共有するだけでも気が晴れます。今後も三角小学校の職員は協力して研究と修養に励み、目の前にいる子ども達に正面から向き合っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。